

五戸総合病院での研修を終えて

令和2年11月研修医

順天堂大学附属浦安病院

初期臨床研修医 廣瀬 友基

今回私は令和2年11月を通して地域研修として五戸総合病院で研修をさせていただきました。

研修期間を通して徐々に分かってきたことが、地域医療を担う医師の重要性と退院後の患者のリアルな生活です。

・医師の重要性

今回外科研修としてお世話になりましたが、これまで私が認識していたような消化器外科の職務、つまり一般外科的な外来、手術、周術期管理だけでなく、

粉瘤、陥入爪などの小手術、術中の麻酔管理、PTGBDなどの透視下での手技、上下部内視鏡検査、検診、訪問診療、往診、検死、などなど、先生方は医療として必要なあらゆることを担っていました。

地域医療と聞けば診療科領域内での Common なことを数多く、といったそれまでの私のイメージと裏腹に、専門的な診療を縦とするならば、診療科の枠に留まることなく私の想像の幅を遥かに超えた横の拡がりを一手に引き受けている、といった印象を持ちました。

・患者の生活

退院後、ご自宅での訪問診療を選択される方、施設入所を選択される方と様々ですが、訪問診療にご一緒させていただく中で、

PerformanceStatus が落ちた状態で退院し、介護用具などを揃え、時にはリフォームを施し、入院に伴う変化を今までの生活にどのように落とし込んでいくのか、といった患者、患者家族の生活の一端を垣間見ることができ、退院後の生活に対してより具体的な姿を想像する一助とすることができました。

今後専門領域に進むとともに、これを意識しているかどうかで自身の達成感や、診療の質に非常に変わっていくだろうと感じています。

今回学んだいずれも、専門化が進んでいる大学病院では経験し得ないことです。

大学病院、地方病院、地域とそれぞれの特徴を理解した上でよりよい医療社会を育む上で、今回の研修は何物にも代え難い経験となりました。

安藤院長を始め、土屋先生、盛島先生、病院スタッフの方々、地域の方々に深い感謝を述べさせていただきます。貴重な機会を下さり、本当にありがとうございました。